



どろんこあそび さいこう!! (斗賀野中央保育園)

あかわ *Sakawa* 議会だより

63
2015.8.1

発行 高知県佐川町議会

6月定例会

contents 目次



黒岩地区に完成したヘリポート

補正予算	2
一般質問 移住定住の取り組みは	7
議会懇談会 (さまざまな意見出る)	13
地域でがんばる	16

一般会計 6月補正予算 1億2,026万円の 増額補正を可決

6月定例会は、6月5日から11日までの会期で開かれました。
平成27年度の補正予算をはじめ、議案6件、報告1件、承認2件、常任委員会の発議による意見書4件、議員の発議による意見書2件、条例案1件を採決の結果、賛成全員及び賛成多数で全件可決しました。
一般質問には、9名の議員が登壇し、町政全般について、活発な論戦を展開しました。

平成27年6月補正予算

(単位：円)

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		1億2,026万	69億8,856万
特別会計	国民健康保険事業	266万	20億1,315万
	介護保険事業	124万	18億2,789万
	後期高齢者医療事業	△933万	2億669万
	水道事業	△141万	3億5,220万



承認案件

税条例の一部改正

地方税法の一部を改正する法律が公布されたことに伴い税条例の一部を改正する。

国民健康保険税条例の一部改正

国民健康保険税の基礎課税額現行51万円を52万円に、後期高齢者支援金等課税額に係る課税限度額現行16万円を17万円に、介護納付金課税額に係る課税限度額現行14万円を16万円に引き上げる。
低所得者の軽減措置の対象となる世帯の軽減判定所得について、経済動向等を踏まえ、所要の見直しを行う。



地方道路交付金事業 8500万円

地方道路交付金を活用した道路整備や橋梁の長寿命化を図る。平成27年度交付額の内示に伴う増額補正。

自主防災組織 活動支援事業 140万円

コミュニティ助成事業による自主防災組織の防災備品を整備するための増額補正。

小中学校教育振興 総務費 195万円

学力の定着に課題のある児童、生徒へ補習学習

指導を行う学習支援員を配置するための増額補正。

補正予算質疑

下川議員 地方道路交付金事業の内容は。

渡辺産業建設課長 市ノ瀬1号線、大平線の道路改良工事、上郷1号線、虎杖野桂線、奥畑線の舗装工事等。
森議員 28年度、上水道と簡易水道が統合されるようだが、利用者への問題は無いのか。

渡辺産業建設課長 会計は公営企業会計の上水道にすでに統合している。業務も公営企業職員の中でやっている。



改良される市ノ瀬1号線

意見書

国にも申す

総理大臣をはじめ、
関係機関に意見書を提出

2017年4月の消費税率10%への引き上げ中止を求める意見書

8%増税が中小零細企業、低所得者層が全国的にも多い県経済に、より深刻な影響を与えている。「産業振興計画」の遂行という見地からも、さらなる増税は絶対に避けるべきである。

県民の実態と県政の実態から、10%増税の中止を求めるものである。



地方財政の充実・強化を求める意見書

地方自治体の財政需要を的確に把握し、これに見合う地方一般財源総額の確保をはかること。社会保障予算の確保と地方財政措置を的確に行うこと。

人口急減・急増自治体の行財政運営に支障が生じることがないように、地方交付税算定のあり方を検討すること。

地方財政計画に計上されている「歳出特別枠」及び「まち・ひと・しごと創生事業費」については、現行水準を確保すること。

小規模自治体に配慮した段階補正の強化などの対策を講じること。

「国の責任による35人以下学級の前進」を求める意見書

子どもたちの学ぶ権利を奪う統廃合ではなく国の責任で、小学校3年生以降の35人以下学級を計画的に前進させること。国は35人以下学級実現のため、標準法を改正して教職員定数改善計画を立てること。

「先生のいない教室」・教職員不足を解消するために、臨時教職員・正教職員確保のための一層の施策充実を求める意見書

臨時教職員と高知県での教員志望者の確保に向けて、緊急かつ特段の配慮と措置を行うこと。また、より一層の臨時教職員の待遇改善を実現すること。

必要な教職員は、正教職員で確保すること。教職員の病休取得が減るよう、労働安全衛生の施策を充実させること。

地方単独事業に係る国保の減額調整措置の見直しを求める意見書

地方単独事業による子ども等に係る医療費助成と国保の国庫負担の減額調整措置の在り方について

て、早急に検討の場を設け、結論を出すこと。検討に当たっては、少子高齢化が進行する中、子育て支援、地方創生、地域包括ケア等の幅広い観点から実効性ある施策を進めること。

「大学生への給付制奨学金創設」を求める意見書

国は、教育予算を増やして、大学生に対する「給付制奨学金」制度をつくること。

各議員の意思表明

賛否表(平成27年6月定例会) ○:賛成 ●:反対 -:議長 欠:欠席

	下川芳樹	坂本玲子	邑田昌平	森正彦	片岡勝一	松浦隆起	岡村純正	中村卓司	永田耕朗	西村清勇	今橋寿子	徳弘初男	藤原健祐
専決処分の承認を求めることについて(佐川町税条例の一部を改正する条例の制定について)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
専決処分の承認を求めることについて(佐川町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
平成27年度一般会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
平成27年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
平成27年度介護保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
平成27年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
平成27年度水道事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
字の区域及び名称の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
2017年4月の消費税率10%への引き上げ中止を求める意見書	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○	-
地方財政の充実・強化を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
「国の責任による35人以下学級の前進」を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
「先生のいない教室」・教職員不足を解消するために、臨時教職員・正教職員のための一層の施策充実を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
地方単独事業に係る国保の減額調整措置の見直しを求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
「大学生への給付制奨学金創設」を求める意見書	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	-
地方自治法第96条第2項の規定による議会の議決すべき事件に関する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

地域担当職員制度 取り組んではどうか

チーム佐川推進課長 庁議の中で協議したい

松浦 隆起 議員



9人が町政を問う

ここが聞きたい

地域密着型の行政を展開するためには、町民、職員、あらゆる人がまちづくりにかかわっていく必要がある。地域の人と一緒にやってさまざまな声を町政に届け、反映させ、課題や問題の解決に取り組み、地域の発展を考えていく地域担当職員制度に取り組んではどうか。

片岡チーム佐川推進課長 地域づくりにおいては、地域の皆さんと行政が情報を共有し、知恵を出し合い、共に汗を流して、パートナーシップの関係を築き、協働のまちづくりを実現していくことが重要と考えている。

本町に合った地域担当職員制度の導入をしていくことを各課局、庁議の中で協議していきたい。

ピロリ菌検査 検討するべきだ

健康福祉課長 現時点では取り入れない

町の行っているセット検診の中でピロリ菌検査を実施することについて

て、昨年の質問の折に、町長より、もう一度検討協議したいとの答弁があったが、本年度も、実施されていない。命を守るピロリ菌検査の実施をもう一度検討するべきだ。

岡崎健康福祉課長 国立がん研究センターの出しているガイドラインにおいて、ピロリ菌検査自体有効な調査結果が得られていないため、推奨しないという形が出ている。現時点では、本町としては、セット検診の中に取り入れないというふうに考えている。



地域づくりは住民と職員で

自伐型林業 事業名の変更を

町長 執行部でよく検討したい

本町が今実施している自伐型林業は、よくわからないという声が出ている。自伐とは、自ら切るということだが、委託を受けて切ることが含まれている。分かりやすくするために、事業名を「佐川町地域自立型林業」に変更し、事業も自伐林業と他伐林業に分け、予算も施策も分けて提案するべきだ。

堀見町長 「佐川町地域自立型林業」という言葉を頂いた。執行部でよく検討し、今後の展開を考えていきたい。予算も別立てにということは、慎重に検討したいが、分けていいこと、分けると一体感がなくなるとの懸念もある。多様な視点からアドバイスをしっかりと検討させていただきたい。



どの木を切ろうか

原発事故の危険性は

総務課長 危惧している

の判断できるような準備が必要ではないか。

堀見町長 長い目で見れば、原子力発電所がなくなっていくという中で、エネルギー政策が望ましいと考える。安全なエネルギーが開発されればいい。

横山総務課長 伊方原発で事故が起きた場合には福島同様になるのではと危惧をしている。佐川町独自の避難等の判断は難しい。これから、対応できるような取り組みもしていきたい。

原発再稼働は危険を伴う。安全なエネルギーへの転換が必要と思う。町長は原発再稼働に対してどう考えるのか。またエネルギー政策をどう進めるのが良いと思うか。

坂本 玲子 議員



生活困窮、連携強化で早期解消を

町民課長 各課と連携し進める

生活困窮者自立支援法が施行されたが、町での対応はどうか。積極的な連携で早期に困難を脱却できる手立てをしてほしい。若年層の貧困、それが子どもの貧困につながり、貧困の連鎖が起こっている。町ではその現実を打破するために何ができるか。

を立ちあげ、支援している。昨年度は70件の相談実績がある。また税務課、収納管理課、町民課、社協なども連携を密に取りながらやっていく。

堀見町長 課題解決は難しいが、多様な面からアプローチしていきたい。なんといいても安定した仕事は大事。佐川町としては1次産業を中心に働く場を作っていく。



共生できる地域交通を！

みんなにやさしいバスシステムを

チーム佐川推進課長 人と町を幸せにする公共交通をめざす

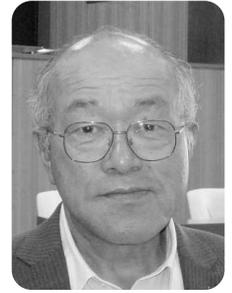
が大きい。高齢者や障害者にやさしいシステムが大切だ。すべての地域の方が利用でき、自宅でも降りできるタクシーや9人乗りなどの小型車でのデマンド型の公共交通が理想だと思うがどうか。

片岡チーム佐川推進課長 調査の結果、さまざまな課題が見えてきた。今後、高齢者にも障害者にも対応でき、現状の課題を解決できるように地域公共交通会議で検討していく。人と町を幸せにする地域公共交通をめざしていく。

佐川町ではバスの利用者が非常に減っている。それは高齢化による要因



もしもに備えて防災訓練！



森 正彦 議員

あつたかふれあいセンター 設置の段取りは

健康福祉課長 それぞれに進めていく

斗賀野のあつたかふれあいセンターの評判がよい。黒岩、加茂、佐川地区への設置の段取りはどのようになっていくか。

岡崎健康福祉課長 黒岩と加茂地区では、集落活動センター設置に向けた地域活性化計画ができています。その中で集落活動センターの取り組みと併せてあつたかふれあいセンターが必要となる。どのような段取りにするのか、予算取りを何年度にするのか、それぞれ話を進めていく。佐川地区については、具体的な動きがとれていない。範囲も広く人口も多いので、母体のしっかりした団体に受けてもらう必要がある。



利用の輪が広がるあつたかふれあいセンター

婚活について 結婚支援の状況は

健康福祉課長 現在はやっていない

未婚の男女が結構多い。しかし、行政として婚活、結婚支援の活動ができていないと思うが、現状はどうか。担当者を置いているか。
スポーツ活動や広域での結婚支援活動を実施しているかどうか。
岡崎健康福祉課長 以前は住民の方々とイベント等を実施していたが、現在はやっていない。県では婚活のイベント情報を集約しているサイトがある。担当窓口は健康福祉課だが、具体的な担当を張り付けての業務はできていない。
堀見町長 行政が婚活についてどこまでやるのか、まだ明確に固まっていない。難しい問題だと思っている。黒岩じりしや商工会女性部が婚活をしている。行政としてもしっかりサポートして、多様な施策を講じていければよいと考えている。

職員研修 積極的な実施を

総務課長 人材育成基本方針の策定検討

横山総務課長 こうち人づくり広域連合等の研修に派遣している。職員研修を実施し、職員の能力を高めることは、地方創生をはじめとする時代を乗り越えていくためには重要なことだ。そのため佐川町人材育成基本方針の策定を検討している。今年度から、職員自らが企画立案する自主研修に対して支援する事業を準備している。このような新たな研修事業にも取り組み、職員研修の充実を図っていきたい。

職員研修の実施状況はどうか。町政の課題に対して積極的な視察研修や調査を実施して情報を得るべきだ。



職員研修風景



下川 芳樹 議員

中山間地域を抱える自治体では、少子高齢化や人口流失による人口減少が深刻な問題だ。当町でも13年後には、黒岩・加茂地区の住民人口に匹敵する2千368人が減少

移住・定住の考え方 取り組み状況は

チーム佐川推進課長 佐川の魅力をつくり積極的に情報発信

する予測が出ています。人口減少を抑える必要がある。町の考える移住・定住対策の状況はどうか。片岡チーム佐川推進課長 活気あふれる魅力的なまちを住民と行政が一緒になっていくれば、移住者定住者も必ず増えてくると考える。現在策定している第5次佐川町総合計画や地方創生の総合戦略に、そうした取り組みをしつかり位置づけ、佐川の魅力を積極的に情報発信し、移住・定住の促進につなげていきたい。

地域おこし協力隊が行う 集落営農と集落営林は

産業建設課長 大いに元気づける活動となる

自伐型林業に取り組む地域おこし協力隊が地域の拠点組織と連携して行う、集落営農と集落営林の取り組みについては。渡辺産業建設課長 担い手不足や高齢化の進む集落に地域おこし協力隊が入り、集落営農や集落営林に取り組みたい。集落や地区を大いに元気づける活動の展開になると思う。地元へ入り、集落と一致協力してもらえらる試みにしたい。

移住・定住のための 農業就労施策は

産業建設課長 専門の相談員を配置

移住・定住のための就業施策として、新たな農業支援策はあるか。渡辺産業建設課長 農業では、平成21年度から昨年度までで新規就農者が44名いる。昨年度からは専門の相談員を配置した。これまでの個別施策を継続しつつ、町の実情に合った事業の受け入れを関係機関と共に協議を重ねている。



共同利用機械で農地を守る

移住・定住のための 民間社宅活用計画は

チーム佐川推進課長 移住者同士のコミュニティの場づくり



空き家バンク、登録住宅

移住・定住促進のため、①本年度購入する民間社宅の活用計画②移住希望者へ情報提供できる空き家バンクの設置③加茂地区への町営住宅建設についての考えは。片岡チーム佐川推進課長 ①購入改修する四国電力社宅は、移住者、お試し、ショートステイ用の住宅として活用する。団地化で、移住者同士のコミュニティの場づくりとして活用したい。②空き家バンクについては住民からの情報を整理・登録し、広く情報発信していく。横山総務課長 ③現在加茂地区には公営住宅が無い。斗賀野団地の建設を例にすると、自治会長、議員、若者など入居希望者による署名要望が契機となった。地域の要望を踏まえながら財政的な検討を進める形となる。



牧野公園リニューアル事業 取り組みは

チーム佐川推進課長 整備進んでいる

今橋 寿子 議員



牧野公園は佐川の宝として世界に誇れる公園である。公園整備の取り組みは行政と住民の輪も広がってきている。

牧野公園リニューアル事業の進捗状況と、ポール・スミザーさんの講演会の成果と今後の取り組みは。

片岡チーム佐川推進課長 26年度牧野公園整備にかかわったボランティアの人数250人。種時教室では佐川、黒岩中学校及び議員、住民、職員等で山野草の苗を育ててもらっている。ポール・スミザーさんの講演会では388名の参加があった。アンケートでは80%以上の方が満足であった。堀見町長 町のさまざまな取り組みについてはチーム佐川の担当課だけに終わらず、庁議等でより一層共有して佐川町全体、住民の皆さんにも丁寧に伝えていきたい。

男女共同参画 実施の具体策は

総務課長 実施計画これから



公園をきれいにしてくれている皆さん

昨年、立派な基本計画ができ、親しみやすいリーフレットが全戸に配付された。実施の具体策については審議会のメンバーの方が継続して取り組んでいくとのことだが、その後はどのようなになっているのか。

横山総務課長 昨年突然の衆議院の解散等で実施計画が完成できなかった。今後取り組んでいく。

地域おこし協力隊 採用年齢制限は

町長 50歳を目安

移住促進として取り組んでいる自伐型林業は体が資本で特に危険な仕事

であり、反射神経も必要だ。地域おこし協力隊の採用年齢に制限はあるのか。また、林業で子供たちに夢を持たせるための施策はどのように考えているのか。堀見町長 年齢は目安として50歳までとしている。子供たちにはふるさと教育の充実とともに地域おこし協力隊員と一緒に活動することによって、農業や林業を含めていろんな働き方や生き方があることを伝えていきたい。



キコリンジャー 真剣に研修



中村 卓司 議員

尾川、黒岩地区では少子化が進み、小中学校の統合が心配される。そこで両地区の現状を踏まえ、今後の見通しはどうか。また統合問題をどう考えるのか。

尾川・黒岩 小中学校の統合は

町長 地域の意見を尊重

川井教育長 現在複式学級は尾川小学校で2つ、黒岩小学校で1つある。中学校ではない。今後予想される複式学級は来年度には尾川では小学校で全て複式になる。中学校は平成32年以降、全て複式になる。黒岩では小学校は今後4年間は2つ、中学校は30、31年に複式が生じる。県では1クラス、20名程度が望ましいといっている。しかし佐川町の将来を担う子供たちの教育環境を考える時、学校統合が望ましいかどうか考える必要がある。統合だけが解決法ではないと思う。掘見町長 人数が多い、少ないでいい学校であるかそうでないのかは一概に言えないと思う。最終的には地域の皆さんが地域の学校をどのように考えるかを話し合う中で、地域の意見を尊重しながら統合については検討していく。



少子化、どうする？

上町に JR客車必要か

町長 議会、住民と共に考える

歴史まちづくり事業で上町に設置されようとしているJR客車は経費面でも非常に問題があると思うが町長はどうか。掘見町長 税金を使って取り組む事業であり、今後は議会の皆さんとの協議、また住民の皆様に周知、投げかけが必要だと考える。その上で最終的に設置するかを決断する。

地方創生事業 今後の取り組みは

町長 農業、観光を検討

地方創生事業で今後取り上げていく事業は自伐型林業以外にもどのような事業に取り組むのか。掘見町長 地方創生事業にのせるためには明確な数値目標を上げることが前提となる。現時点では農業振興、観光について数値目標ができるか検討している。可能であれば、総合戦略にのせるか審議会の皆さんの意見を伺い、検討していきたい。



準鉄道記念物
□481号客車（明治時代の2等客車）
この客車は明治時代の代表的な2等車（いまのグリーン車に相当）で全国に32両配車されたものの一つです。鉄道開業100周年を記念して復元保存を計画、多度津工場で完成させたものです。
これまでの足あと 諸元
明治39年 鉄道作業局新橋工場（今の大井工場） 形式 D400
大正13年 土曜列車臨時一日下関の急行車として 座席定員 24人
昭和8年 完全内大田中央駅発の努力号（後述） 日車 7,371
昭和43年 尾山支線の青山空海寺等臨時列車に 形式 7977-1
昭和49年 尾山支線の改修に伴って、解体して 形式 2489-1
昭和53年 多度津工場にて復元完成 形式 3638-1
昭和53年10月14日 日本国有鉄道四国局

多度津に展示されている客車



片岡 勝一 議員

林道の整備をせよ

産業建設課長 あれは作業道である

林道小奥川ノ内線の途中に町有林がある。町有林との分岐点に大タヲ山への道標がある。しかし荒れて、無数に石が転がっている。この林道も必要があり作られたはずである。整備すべきだ。

渡辺産業建設課長 その道は平成23年度、作業道として佐川町が開設した。いわゆる突き飛ばしの作業道である。林道作業車の通行、間伐搬出が目的であった。作業道としての役割が果たせるよう、管理、補修面は暫時行っていく。しかし観光の目的の道ではない。



荒れている作業道

ナウマンカルストステージ周辺整備を

総務課長 整備を検討する

この建造物には排水溝がない。このまま放置すると基礎が腐食して修理代が多く必要となる。雨垂れとステージ前広場の水が建物の床下に入らないように側溝をつくり、雑草が建物の中に生え込まないように周囲を舗装するべきだ。

横山総務課長 年2回の草刈りを3回に増やそうと思っている。また玉石基礎が埋もれそうな箇所もあり早急に土砂を除去。基礎の修繕が必要ならば床下の件も側溝も含めて検討したい。

県有地、借りて道の駅できないか

産業建設課長 借用できない

国道494号線、桂・岡崎大橋の南に県有地がある。この土地を払い下げ、または借用をし、道の駅を設け、レストラン、喫茶、トイレ等完備した年間を通じて使用できる多目的広場ができないか。

渡辺産業建設課長 この土地の使用目的について高知県中央西土木越知事務所に確認した結果、これらの県有地は道路用地として買収し、国道494号と県道長者佐川線の交差点予定地として購入している。払い下げ、借用はできないと回答があった。



腐食が心配される野外ステージ



女性の採用が多い 危機管理どう考える

町長 採用試験変えていきたい



岡村 純正 議員

25年度4名の退職に対し新採用5名、内訳は男性1名、女性4名で1名増、26年度は、4名の男性退職に対して、男性3名、女性6名で5名の増となっている。現在の、

男性職員と女性職員の数とその割合は。採用試験時に佐川に住んで下さいの一言を伝えているのか。

緊急時の危機管理に対して、将来を見据えた、人材の確保も考えておかなければならない責務が、町長にはある。どう考えているか。

横山総務課長 現在、総職員数129名で、内訳は、男性63名、女性66名だ。

堀見町長 試験時に佐川町に住んでいただきたいと伝えている。傾向として女性が、筆記試験、面接対応などがしっかりしている。女性、男性ともに平等に見ているが、危機管理も考えて採用していくことも大切だと思っ

ている。平成28年度は採用試験を変え、一次試験に面接をいれ、人物、人間性を見ていきたいと考えている。

職員増、人件費は 自主財源だけで賄えるか

横山総務課長 対応の計画立てていない

職員増は、人件費にも影響が出てくる。22歳から30歳までに採用し、30年勤めて課長で退職した場合おおよそ2億4千万円になる。本町の自主財源は約11億円だ。人件費だけで年間10億円くらいが必要になる。

将来、年間の総人件費がかかる費用の計画を立てておく必要がある。すでに立てているのか。

横山総務課長 人件費の今後の推移に対応する計画は、現在立てていない。堀見町長 今の国の交付税の考え方で行くと、健全な財政運営ができるかと考えている。



危機管理、どう備える？

集落活動センターを 滞在型避難所に

横山総務課長 ある程度の規模必要



集落活動センター、避難所にも活用！

尾川の集落活動センター。たいこ岩は、外部の調理場、内部に大勢に対応できる調理場、シャワー室、水洗トイレ、小会議室、大広間もあり、避難

者の受け入れが可能だ。本年度にはアマチュア無線設備も設置され、災害時の情報中継所、発信所として役割を担える。滞在型避難所に指定できないか。

横山総務課長 平成25年地域防災計画の修正で、地域住民の自主的避難所として指定している。

拠点避難所としての指定には、ある程度の規模が必要だ。たいこ岩の施設の機能は、拠点避難所の運営補助に大いに役立つ、拠点避難所との十分な連携を図っていききたい。



永田 耕朗 議員

医師住宅への入居は問題を生ずる

町長 できるだけ早く退去する

町長が医師住宅への入居について、町民の方々から目的外使用との声が数多くある。佐川町では町長官舎を認めていない。

医師住宅への入居を誰が許可したのか。病院管理者が特認で認めている入居者は誰か。昨年12月公布の管理規程は、もともとの設置目的に反している。管理規程は無効ではないか。今回町長が医師住宅へ入居する目的がための規程ではないかと疑われる。町民の財産を行政の長が規程を変えて入居すること自体、許されることではないと考える。県の町村会、議長会に問い合わせても事例がない。想定外と言われた。また、使用料についても3LDK78㎡で月額2万5千270円では、町営住宅と比較した時に格段の開きがある。町長が町営住宅へ入居するとしたら9万7千100円となる。今回の規程が適正かどうか、町民は納得できないと思う。今の状態ならば、町営住宅の管理がこれから非常に混乱を来すと考ええる。

町内には、いくらでも



高北病院の職員住宅

賃貸住宅がある。町民から疑念を抱かれないように、身辺、足もとをきれいにしていたらいいと思う。片岡病院事務局長 医師以外の入居に関して、県より、差支えないとの返答があった。昨年12月公布の管理規程の特認（特に認めたる）によって高北病院の院長が入居を承認した。現在、特認規程での入居は町長のみだ。しかし町長を入れんがための規程を作ったのではない。空き室が続いており、住宅の有効な活用策を考えて、規程を作った。

追跡 あれはどうなったが？



27年度交換可能に

平成27年度からまだ使用できる防犯灯のLED化も対象となり交換できるようになった。

どうなった

防犯灯LEDへの交換の補助について

(平成26年6月定例会)

防犯灯の電気料が半分になるLEDへの交換の補助をしては (坂本議員)

横山総務課長 答 弁

今後検討する

まだ使用できる防犯灯は、LED化の対象外となっている。今後検討する。

あの質問のゆくえ

No.34

堀見町長 使用料については県で規定している面積当たりの家賃で算定して決めたと聞いている。入居に関しては、私の配慮が足りなかったと考え

ている。無理矢理ではないにしろ入居していることは事実。真摯に受け止めて、できるだけ早く家を構えて退去する。



《 住民の中へ . . . 地区別に議会懇談会を開催 》

5月1日から29日の間に、町内の5地区で議会懇談会を開催しました。

議会からは27年度当初予算の概要や、3月定例会の内容について説明をし、住民からは移住促進の問題など幅広い意見や要望が寄せられました。

黒岩地区

5月1日 22名

問 移住促進住宅は箱物政策ではないか。空き家を生かすべき。移住者募集、ふるさと納税等にホームページを活用したらどうか。

答 空き家は地域にあるが、貸してくれる物件は少ない。
ホームページの件は執行部へ伝える。昨年度から地産の商品を増やして、寄附額は増えてきている。

問 避難所となる公共施設で耐震化がまだ完全でない施設はどこか。
答 遊学館や公民館ができていない。非構造部材の耐震化はまだだ。

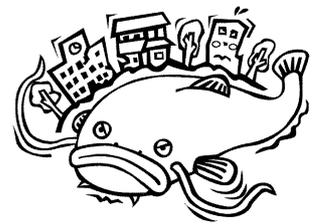
問 柳瀬川の氾濫については、仁淀川から逆流し農地が水没している。抜本的対策は柳瀬川改修だけではないか。佐川・越知の放水トンネルは？

答 大変な水害と認識している。国・県へ働きかけをしよう。

問 活動の拠点をいくつかほしいと敬老会の復活や運動会の活性化、花見花いっぱい運動等の活動を続けてきた。

活動を認識し、拠点づくりを進めてほしい。

答 今年、加茂・斗賀野・黒岩の集落活動センターが計画されている。
黒岩については耐震化という計画ではあるが、新築、改築を含め再度検討することの答弁だ。



問 立派な病院ができたが医師がいなくては民間の病院へ行く。医師を呼びよぐではないか。医師住宅には何人いるか。

夜間の医師は何人か。
答 医師数は充足していない状態で病院側も、医師の確保に努めている。当直は1名。

問 地域おこし協力隊について、町としてどういったスタンスで受け入れているか。

答 自伐林業9名、観光行政、スポーツに各1名受け入れている。町は移住促進につながるよう進めている。



議会懇談会（黒岩地区）

尾川地区

5月8日 13名

問 移住促進のための予算には四国電力社宅の購入が含まれているのか。妥当な値段か。仕事がなくて移住者が来るのか。

答 予算に含まれている。本町は自伐型林業に力を入れている。推進役として協力隊に来てもらっている。その受け皿として住宅を使いたいとの考えだ。

問 中村から山田の間、特に道が狭い。通学路にもなっている。水路の上を歩道として通学路確保できないか。

答 県道とのからみもある。土木と執行部の方に提案していきたい。

問 自伐型林業は将来性があるものか。架線を張っての作業をやれば、作業道をつけるほど山は荒れないと思うか。

答 将来性については注視している。道の作り方は大切。講師にならってやっている。

問 林業に町長は力を入れているが、米農業についての考えは？

あと10年したら尾川の農地は廃っていくと思うが。

答 米価の暴落についてはJAの単価5千円を切る状態になっており、地域の崩壊につながる。

ふるさと納税等で高く売れる道を探っていく。また飼料稲に一部転換していく、需要のバランスをとらさう。



問 民間の病院は患者を迎えに来ている。高北病院の患者が民間へ流れていくのではないか。

答 公営病院は患者の送り迎えができない。病院自体は診療患者も増えており、赤字経営ではない。

— 住民の信頼に応えられる議会へ —

加茂地区

5月15日 12名

問 移住促進はターゲットが大事なところだと思いが、どう捉えているか。

答 四電住宅購入について、説明を。

問 ターゲットというより希望する方に来ていると、大きく姿勢で臨んでいると思う。町は地域おこし協力隊の受け入れに力を入れている。

答 四電住宅購入については荷稻等の町有地の利用についても検討してもらいたい。

問 町の施策は福祉側に力点がおかれているような感じを受ける。一次産業振興にも知恵をしばってもらいたい。

答 一次産業については非常に難しい問題である。米については飼料米をひくると反当し8万円の補助が出るようになった。

問 加茂には汽車は通っているが、家から駅までも遠いし、また駅から病院にも遠い。高北病院前に停留所ができています。加茂地区へも日に何便かバスを回せないか。

答 議会でも質問をし、執行部の方で地域公共交通会議を立ち上げて検討がされている。今後とも議会としても提案していく。

問 加茂へ町営住宅の計画は検討されているか。

答 今は計画はない。地域から要望をあげていくことが先決。

問 崩れかけている道路の補修ができないのはおかしいのでは。

答 緊急性の高い順にやっているとと思う。なお、自治会長を通じて要望してほしい。

問 国道33号の目下橋の渋滞解消を強く望んでいる。見通しはどうか。

答 歩道、右折車線の計画がある。



斗賀野地区の町営住宅

斗賀野地区

5月22日 23名

問 図書館の視察へ行って感じたことは。

答 町長は青山文庫との複合施設を考えていないと聞いているがどうか

答 天井も高く、子供のスペースもあり、資料も十分整い、住民が利用しやすい施設であった。住民の意向に沿う佐川町にふさわしい図書館の建設に向け、今後十分検討していく。

町長は青山文庫の耐震化を以て残す考えだ。

問 保育士の待遇や人員は十分か。研修についてはどうか。県外、国外での研修も必要ではないか。

答 臨時の保育士の賃金は、徐々に改善はされているが、まだ低いと思う。保育士不足を解消するためには改善すべきと思う。

研修は年2回町全体で実施している。また他の研修にも参加している。



鳥取県北栄町の図書館

問 霧生園の土地利用計画は

答 計画変更の手続き、協議を行っている状況。町長は火薬庫を移転させなくてもできるヘリポート等を計画している。

問 上町へ客車を持つてくる計画があると聞いた。観光に本当に役に立つのか。もっと有効な金の使い方があってはどうか。

答 執行部と協議をしながら進めていく。

問 公民館の耐震改修は町がやってくれるものか。

答 町が年間5カ所くらいずつ順番に改修を行う予定(地元負担はなし)

問 道の駅はつくる方向で検討されているのか。

答 地方創生の総合戦略の案の中ではうたわれている。さまざまな問題をクリアできれば道の駅をつくりたいというのが町長の思いではないか。

問 町内の要所に防犯カメラが必要ではないか。

答 コンビニには道路まで写るようにカメラが設置されている。

議会懇談会

佐川地区
5月29日 12名

問 国道33号、高速道路の、いのインターから佐川までの交差点に右折レーンがあれば渋滞が緩和される。計画はあるか。
答 一部、計画はある。

問 佐川歩道トンネルの出入り口付近に国道を安全に渡るための信号はできないか。
答 近くに信号があるのでものを渡してほしい。

問 ナウマングラウンドが活用されていない感じが受けるがどんな状況か。
答 執行部に対して議員からの提案も必要ではないか。

問 現在少年サッカーのチームが主に練習に使用している。
答 議会の一般質問で、もっと活用すべきと指摘し、執行部からはスポーツ振興計画の策定を検討しているとの答弁があった。



ナウマングラウンドで実施されたグラウンドゴルフ大会

問 柏原の入り口の道路(国道494号)はスピードが出ている車が多い。減速の表示ができないか。
答 現在、徐行を促すひし型の表示はしている。公安委員会へ伝える。

各地区でのその他の要望、意見

◎図書館は子供を遊ばせることができる場所等を総合的に考えて利用価値の高いものをつくってほしい。

◎図書館は赤ちゃんから高齢者まで利用できるコミュニティ的存在であるのが望ましいと思う。

◎子供図書館に特化した図書館づくりはどうか。大人向けの専門書をそろえたら膨大な量、質が必要となる。インターネットに任せるとき。

◎加茂住民センターができるようになりよかつた。

◎町長が医師住宅へ入居しているのは目的外使用だと思う。

◎防災、減災という観点から加茂地区のインフラ整備を

◎議員定数について各地区から減らしてもいいのではとの意見が出ました。

それについては、県内の町村での現状について説明をしました。今後とも議会で検討を続ける予定。



あなたが選んだ議員の仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は9月4日(金)午前9時開会予定です。傍聴においでください。

編集後記

私の家にどこからともなく一匹の子猫がまいこんできた。だれが捨てたのか。かわいそうと飼いだした。猫は妻になつき、寄つて来る。家は猫が来てから猫中心に廻り出した。ペットは私たちの暮らしに喜びや潤いを与えてくれる。犬や猫はさまざまな感情を持つ生きものだ。少子高齢化がすすみ、ペットをかけたがないパートナーと考える人も増えているそう。しかしペットは衝動買いせず、最後まで飼育できるかどうかを冷静に考えるべきだ。また、望まない繁殖を避けるため、不妊や去勢手術を受けさせることは当然の責務だろう。

飼い主にはペットが命を終えるまで適切に飼育する「終生飼養」の責任があると思う。飼い主の責任は重い。

邑田

議会広報編集委員会

委員長	森 正彦
副委員長	片岡 勝一
委員	邑田 昌平
委員	坂本 玲子
委員	下川 芳樹

※わかりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。

地域で がんばる



吉野さんと竹村さん

わがまち佐川には、地域の活性化のために活動している組織やグループがあります。その皆さんにスポットを当て紹介します。今回は、NPO法人佐川くろがねの会の竹村脩さんと吉野毅さんにお話を伺いました。



好評の観光ガイド

― 上町の町並み保存や活性化、観光推進にはなくてはならない存在となっていますね。

歴史ある町並みは町の財産ですので、保存・継承しなければなりません。観光資源としても価値のあるものです。誰かがやらなければと有志が集まり平成19年に結成しました。会員は65名です。

佐川くろがねの会



人気の酒蔵ロード劇場

― 観光ガイドが好評のようですね。

ガイドなしでは魅力は十分伝わりません。みなさん喜んでくれています。そのせいか、ここ数年、お客様がずいぶん多くなりました。

― 白壁に影絵を映す酒蔵ロード劇場やひなまつりも実施していますね。

影絵は始めて5年になります。すばらしい祭典だと、町内外から評価を頂いています。ひなまつりも家々の格子に飾るオリジナルの格子雛が大変好評です。

― さまざまな活動で町を盛り上げていますが、今後の抱負は？

歴史的な町並み保存と観光をさらに進めるためには、町と観光協会とくろがねの会が、一体となって取り組むシステムが大切です。そして佐川の活性化がさらにすすむようになればいいと思っています。

どうもありがとうございます。

みなさんの活動がなければ佐川の観光は成り立たないと言われていました。今後ますますのご活躍を期待します。

あなたの周りに、佐川のまちの元気のために活躍されている「組織やグループ」をぜひ、ご紹介下さい。



佐川くろがねの会の皆さん